

## 都市公共交通整備にともなうアーバン・インテリアの実証的研究

Survey and Analysis of urban interiors created through the new urban traffic system

ペリー 史子(PERRY Fumiko)

次世代型路面電車としての期待を担っているLRT (Light Rail Transit)の導入は、単に新しい公共交通システムの一部としてとしての役割やバリアフリーの機能性だけではなく、最終的には、都市あるいは都心エリアに、LRTを含む都市公共交通システムネットワークに支えられた楽しく心地よい遊歩空間をもたらし、視覚的にも魅力的な都市公共歩行者空間を創出することにあると考えられる。すなわち、都市空間へのLRT導入は、都心における歩行者のための質の高い空間、アーバン・インテリア\*)の拡大・創出、及び都市景観や街並みにも大きく影響を及ぼしていくと考えられるのである。

そこで、LRT (Light Rail Transit) 導入が進んでいる欧米諸都市の中から、都市特性を鑑みそれぞれに特徴的な、チェコのプラハ、ドイツのドレスデン、アウグスブルグ、ミュンヘン、オーストリアのウィーン、スイスのチューリッヒ、フランスのミュールーズの7都市を選出し、LRT路線図、LRTの車体や停留所、パーク&ライド、軌道等に関する文献調査を行った。そして、LRT導入に直接関わって生まれてくる都市的エレメントのデザイン、及び、LRTとその周囲の公共空間との関わりに関するデザインエレメントのリスト一覧を作成し、これらに基づき、2011年3月20日から3月31日に現地実態調査を実施した。

### 1. LRTプロジェクトのデザイン的特徴

調査対象都市は、人口11万人のミュールーズから167万人のウィーンまでとその人口規模には大きな幅があり、系統数や総延長等のLRT路線規模も様々である。各都市におけるLRTプロジェクトに関しては、車体(外観及び内装)、停留所(シェルターや券売機等の装置、素材、配色、照明器具)、軌道、パークアンドライド含む沿線状況等の色彩計画を含む実態を具体的に探り、一覧表を作成することを試みた。そして、各都市のプロジェクトにおける車体、停留所、軌道、沿線に関するデザインの特徴と景観との関係、LRTプロジェクトの全体的なデザインの特徴を探ることができた。

### 2. LRTプロジェクトと都市景観

現地調査を進めていく中で、特に、プラハの郊外路線、ミュールーズの1路線において、LRTプロジェクトに伴う大胆なシンボリックデザインを見出すことができた。LRTプロジェクトの一施設である停留所を、大胆かつ遠くからでも見えるデザインでつくり、その周囲に新しい環境を生み出しているのである。既存の都市景観との調和という観点とは異なる、新たな別の視点からの取り組みがなされていることを見出す事ができた。

補注\*)アーバン・インテリアとは、筆者を含む研究グループで、「都市機能を有するインテリア空間、あるいはインテリアのような空間」と規定している空間である。